



象穗錄

柳士昇傳
在尾高安明倫去智摩
新川岡田地之是也若象穗錦卷

01
相
1-1

全四冊

物部兼言託



兼言紅序

茲海也尾府家后園田挺之所著者也挺之
 世襲武職其作暇則考舊聞采新澤凡
 泉菴懈涉統和漢之群藉訂訛覈其生
 切勒矣屬去林注眼據史乃縉罔之疏通
 精詳引證明悉窮其源委得益益



古

不為不多矣予惟未識生人而其才之傑
可以想見也因數數言而還之以為後學
者為起本云爾

正觀町三品實連卿

雲霞堂老人

絢齋吳儂書

新加坡文化會館
第 35.2.18 初
51035

A04
1-1

A049
1-1

素穗錄序

吾兄挺之所嗜唯書九流百家仙佛之書
無不研究談洽與劉揚比最愛異國每
有所得筆之於書名曰素穗錄今已付
剞劂皆前人所未著者通言之中自有
道者讀者賞激唯恐卷盡譬之若豐年

康德錄

之椽嘉粟馨香可以薦於神明而比之遺
秉滯穗寡婦所利者蓋其謀也

恩回仲任撰

絢齋吳傑錄

秉穗錄卷一

尾張 岡岡挺之輯

尾州萱津子數香物有り十刻括管三品
の家よ志す足いりと云條よ或あかりの物
とりのりよゆえりさ謗あり

能の舞臺の下に餅を埋む事有り考槃餘
話於地下埋大缸缸中懸一銅鐘上用板鋪
とそたり邊生ハ成り也此りと載す

程々の溜よかり金山とりのり人其を復然

程小唐去小金山徑山何りいつれもきさせ
呼小禪家よとこれとわつら呼ふよ小金山
こころは徑山とらふらん

善病善崩等の善字今俗伺わわさき
よもよく何何といふ病あり

塵劫記の十二卷三千四百六十の數は法苑と
一ハナと法と除きたる高なりと或人語
り

肇法師秦主の語はあひ刑小眩んで偈と説

て云四大元無空五陰本来空將頭臨首又猶似
斬春風^フ去年記資朝卿辭世の頌と作はなつ

下野郡須國造碑山樵高水川北小野毛人墓河
内石川郡古日村石刻大和守知新大津村楊

貴氏墓尾張葉栗初河田村栗栗人替墓といふも
飛鳥浄原の朝廷の内らん奇いとよみ

曲禮小松級^フ累足正義拾波也謂前足躡二級後
足從而併之也とおゆいふといひゆいふといふ

發揮拾遺編ハ弘法大師性靈集よとれたる迄

又より其中に思渴之次忽惠珍茗其頃茶と
貴す半一明らあり

方は齋書王儉傳小隸事とらあり徂來の考小
隸當作隸とあり却て隸とん他書も隸
とらあり隸とらあり故隸とらんとらあり
がらあり

為し謂く音も刻も亦お近し

體源に豊原骨水あり又木に杖桑あり花上ハ
かあり許人の草人木に茶あり教る

太平記の阿新丸ハ白樂毛の姪の名と角ひり
カス

俗小戸と小猿編と小軍林實鑑小猿智五三幸
車注不猿猶色小邑古文作戸戸車相合佐陣
字とあり

三體持の舊刻を末小葉葉を讀くゆり何人か
ふと却り後ハ或人葉葉子の書す文致と余は
亦寸印文小蕉寛の字ありと相國寺の老藤和
尚あり

信設宛小は花経と引て縁起の字、佛家より出
 づりといひ六一條より半一より文章縁起といふ書名
 もわ色の佛書小増ねらふ少ありし
 朝鮮の字、秋月余ふ和す、詩の後小甲申流頭而
 とをさせり人小同少は詳より寸法小東國通鑑と
 見く小國倭以六月十日向、沫發控東、既水、被除不
 祥、因會飲、舞、流頭飲、以文より六月十午のり
 るのあり
 將指ハ平足よりかきり左傳正義少是、以大

梅、為將、梅子、以、梅、為、將、梅、

赤名、釣、小、尾、張、丹、羽、却、小、五、雙、あり、今、吾、然、と
 書、て、何、つ、と、呼、小、利、と、り、て、考、れ、ぬ、吾、雙、が、し、と、
 互、小、詠、り、り

延、享、氏、辰、未、聘、の、和、鮮、人、よ、め、歌、と、て、え、の、ん
 せん、と、ん、ち、や、と、と、ん、ん、は、採、い、ま、る、採、い、ち、や、ん
 ば、ち、ん、ひ、

名、云、墨、竇、小、裁、つ、り、少、中、々、々、風、の、書、ハ、偏、信、る、と、一
 新、撰、朗、詠、の、詩、と、寫、ヤ、り、代、お、達、す

宗祖筑紫の紀行の文の乙未年より二毛の昔より六十の今までのまゝくはらひはあり東海の後より宗祇の年の十八九より一高年より旅行のころより宗祇の年より一寛喜小文龜二年の年より一永正六年より七年前より一つねのまゝなりや秋齊閑謔の編笠の北條氏政の作のころより一つねの太平記の曲なりとせり善経記は佐藤君位の編笠ききたりとせり

字貫小令人以斗馳等貴釘以銅星貞隆至而形小
于稱凡金銀悉以爲御謂之等子言其公聲不
差確有等級俗造戲字大謬とせり戲の俗字も
て今のはよりなり

撰集抄の西海枝の一角あり

ゆつの緑をなるとへきて盃の皮とて安藝の人
鴨頭とせり

美濃小六月初ありとて村の元末有字
なりとて二文字あり

伊豆の海力井仰くつ所の民家小昔の人本家
 少歌とかうたると蔵む低るといふ茶の物より
 とと又後小角の著く物と蔵めるともあ
 り

三嶋ぬ祚の社領の地わて、罌籠と捕ま
 と棲ひあふ人も畏れ陸地ふけひらりて
 物とくふ此社に鐘核寶塔仁王門らりく
 仁家の制ふゆり秋祭と供す、付もみ
 傳と撃ひ

信州戸隠して言傳う言傳小求法坊より真
 言宗の傍神通とゆく地と競く、三尺
 小して飛行す、三尺坊といふ、あ
 中、三尺坊といふ、これ秋葉の神といふ
 妻あ、必淋、小、溪傍、五雲、清、蓮、玉、松、分、八、面、等
 成宮今の四方面の松といふ、り
 晋書職官志小著作、即始、到職、必撰名臣傳一
 人

皇朝も大織冠鉞足公等の傳、り、は、数、り

朱子評類は思量遠道理如過老木栢と為家郷
 の歌と云ふ九木栢と云ふことと云ふこと
 通鑑唐肅宗於三殿置道場以學人為弘善薩
 武士為金剛神主召大臣膜拜圍繞と常摩
 の練供者少有り
 九月九日と吹花節と云ふ宋朱祁後苑燕射
 賦は月著授衣之令日紀吹花と云ふこと
 たり

文體明辨小上梁文者工師上梁之致語也世俗營
 構官室必捨吉上梁親賓裏麩饅頭雜他物稱慶
 而因以糶匠人於是匠人之長以麩拋梁而誦此文以
 祝之と云ふ深あけの解と云ふことと云ふこと
 今サヤ付了大舜より黄廷賢より二十四孝
 の名典籍便覽も載す

汪連志と云ふことと云ふこと顏氏家訓も章新汪連の子
 ありふ名栢も是と引たり法苑珠林もけふの
 たり其義ハ洋と云ふ

山字肆考小文並稱中國曰之國と人園此といふ書
名故曰とあり

尾ぬらう水郷の村と輪中といふ廣東新会小番
禺諸村皆在海島之中大村曰大菴園小村曰小菴園
言四環皆江水也といふあり

漢書小質氏以酒劑而昂食師古曰人刃刀劍室
惡者為洒濯令更新也刀のさやとあり

羣論探訪小園押字制上下多用一畫蓋取

地乎天成之意と今と向

檢芥抄小八月一節とあり諸書小五月六日
といふ中食といふといふはては載りてあり

任旬小丙午の年と忘む密齋陸筆小丙午丁未之
歳中國退此輒有夏坂此福益其内則夷狄外侮と
又丙丁龜鑑よ此類とあり

方巨山詩小村夫子挾兔園冊教得黃鸝解讀書能
祀蒙求中一句百般鳩院可將渠自注よ蓋俗に其

齊為呂望非熊、と勸學院の雀芳亦と稱すとい
ふふなり

北魏孝文の四姓の孫なり、唐の崔盧李鄭と西姓
と寸源平藤橘も是れ小准すといや

晋天文志小穢女三星主果麻絲帛珍寶とい又小
瓜果とい向ると此れあり

周禮疏も去秋緯といて庶人無墳樹以揚柳といり
邦墓小初とい括ると此れあり

漢明帝營壽陵之詔過百日惟四時後奠北齋書

孫靈暉傳も毎七日及百日終靈暉恒為禱の傳僧
設齋北史魏胡太后父國珍卒詔自始薨至七七皆
為設千僧齋令七人出家百日設萬人齋二十七人出
家とい七日百箇日いふふと終すといるなり

池北偶談も昔予在禮部見四譯進貢之儀或謂
中國為漢人或曰唐人謂唐人者如荷蘭暹羅諸國
蓋自唐始通中國故相沿と云爾と今此いなり唐土
と稱すといるなり

文子日月光明浮雲蓋業業欲脩秋風敗之

正五九月と月々久々ふりあり

山谷集の信は坪倉とて山風也といふ

唐李紫嗣覽鏡は小童去紅顏盡粧ま白髮新今お

向鏡面疑見別逢人すは倦意ありれふりし

房々見ふりありとわぬあまあふはまもや

りつゝ同きり

志氣の厚く小貴忠孝之両全則忠可移孝正文武之

道則武可輔文とふ武二道のよろこむつ

韓非子ふト並視手理とをれすらと占あり
久一

鶴肋婦小菫山倡妓皆以子為名若香子花子之類
亦俗女子の名よみとれり

朱子語類も鶴鴛繡は信君看莫把金針度與人
他禪家自愛如此とま獻吉持まは生不識鴛鴦

繡出鴛鴦是の句是と用いり
羣書法要も論語の教鄭聲遠佞人の下鄭声

佞佞人殆の六字御書して治は是又一世は佞人

老子小是^レ以候^レ王自稱孤寡不較^レ注^レ不較^レ喻^レ不能如
車較^レ為^レ衆輻^レ所湊也^レ以視^レ珍^レら^レ——
相醒雜志^レ少少陵^レ左詩有^レ孔行吟較^レ之異名^レ每典能^レ
待^レ者^レ求^レ其^レ別^レ就^レ未嘗^レ解^レ茲^レ乎^レ心也^レ嘗^レ觀^レ宋書樂志^レ以
為^レ特^レ之^レ流^レ有^レ八^レ曰^レ行^レ曰^レ引^レ曰^レ歌^レ曰^レ謡^レ曰^レ吟^レ曰^レ詠^レ曰^レ怨^レ曰^レ歎
女^レ後^レ其^レ必^レ有^レ不^レ祖^レ述^レ矣^レ世^レ豈^レ無^レ然^レ別^レ之^レ者^レ恨^レ余^レ之^レ未^レ遇
と趙宋の句^レ其^レ多^レ分^レ明^レら^レる^レ守^レて^レて^レり
今人妄解す^レ非^レ多^レり——

群核採餘^レ墓銘墓誌墓表墓碣皆^レ一教也^レ銘誌
則埋^レ于^レ土^レ衣^レ碣^レ則樹^レ於^レ外^レ表^レ謂^レ有^レ官^レ者^レ碣^レ謂^レ無^レ官^レ
これ多^レしん^レり^レる^レ也

吳仁傑^レ兩漢刊誤補遺^レ不^レ書^レ拈^レ母^レ若^レ丹^レ朱^レ傲^レ慢^レ拈^レ是
好^レ傲^レ虐^レ是^レ作^レ閩^レ水^レ行^レ舟^レ朋^レ淫^レ于^レ家^レ陸^レ德^レ明^レ音^レ義^レ於^レ丹
朱^レ傲^レ云^レ字^レ又^レ作^レ鼻^レ乃^レ知^レ丹^レ朱^レ鼻^レ為^レ二^レ人^レ名^レ今^レ若^レ也
治^レ要^レ載^レ了^レ尚^レ書^レ丹^レ朱^レ鼻^レ少^レ作^レ一^レ流^レと^レり

單^レ朱^レ起^レ於^レ落^レ照^レ依^レ山^レ盡^レ王^レ之^レ漁^レ白^レ日^レ依^レ山^レ盡^レの
句^レこ^レり^レる^レ也

蔡菜音直と葵は蔡字形おそく古蔡と葵字未
用ひてて程て葵字ありたりたりたり公儀休拔葵
陸室耳葵等々蔡字なり

春秋傳の白瀆之丘即穀丘なり白瀆の反音穀
なり二合の音自然なりたりありたり

古今註に赤城赤壁賦吾共子之所共食一本作共樂
當以食為正賦本類後此賦自以月色竭食籛白為協
若作樂字則是取下客喜而笑洗盃更酌為協不特又
勢萬爾而又段俗叢雜所謂食者乃自己真味受

用之正地非它人之形此知者也鶴林玉露にもは
賦と論して規は風山刀食之無盡く食字なり
明くなり今多し適さるる作

古傳風馬牛の注小末界微くあり曹子建九枝
賦に踐菑歲之末境く見たり末界末境同

こ一

の人の詩類に南海子あり仍水金鑑に詠律録に月
て都人呼飛放泊為南海子核水潭為西海子括海子之
名見於唐季王鎰為鎮帥有海子園嘗館李巨威

於此北人凡水之積者輒曰為海若寶坻之七里海昌
平北之四海治是也

中庸と表章す。予程子中注中注中注宋書戴顓
傳注法禮記中庸注あり説苑注中庸注あり
李于麟詩注孔子行畫思注同社注人多解注貴注命
州注不急注難注心轉注赤注行畫注髻注先注蒼注又知君注昔注同注多行
畫注為注假注椒注香注奉注至尊注紫進注御注蒼注霞注草注送注塩注城注陳注今
序注不必注以注暇注日注紆注畫注深注圖注設注長注久之注計注又吳郡申時行
書注蕭注衡注八十注詩注行畫注三陸注晏注舍注和注八表注春注之注行

并注考注へ注て注其注然注也注一

王羲之蘭亭序注古本蘭亭詩序注と呼注古文真寶
又注記注部注又注收注め注一注也注三注家注真注記注と注云注て注人注あり

宋玉禹偶詩注も注誰注是注山陰注作注序注人注と注い注ふ注り

通鑑唐敬宗幸興福寺觀法門文淑俗講注注注も注韓氏
講注説注類注説注空注有注而注俗注講注者注又注不能注演注空注有注之注義注佳注以注悅
俗注邀注布注施注而已注と注樂注府注雜注録注も注俗注講注僧注又注叙注と注あり
同人注あり注一注今注俗注の注在注家注と注あり注め注く注説注法注す注一注俗
講注と注稱注す注一注

又古宗紀子以山車陸船載樂往來注山車者車上施棚閣加以綵繒為山林之狀陸船者縛竹木為船形飾以繒絲列入於中舁之以行今余の車と山と
 いづのふれ

又東濟上表曰有周之隆既如彼大漢之禍又如此唐の長ふして有周大漢と移と去れん今大明あつてもいづのふれ移と去れん

陸放翁入蜀記太白登黃鶴樓送孟浩然持云孤帆遠映碧山盡惟見長江天際流蓋帆檣映畫山

右可觀非江行久不能知也今映之影影は ぼつと
 ぼつと

又曰未嫁者率為同心髻高二尺挿銀釵五六隻後挿大象牙梳如手大今女子の態也

五雜組弁州載宋慶元中一歲五次月食而皆非望其後有一歲八次而亦不拘望者今攷宋史天文志並無之不知何所出也今按寸寸小文獻通考

齊陸苦と してのと 載寸 甚詳多 謝在杭博物あり といつても一時失記せり

北史周宇文護母關氏在齊與護妻昔在武川
鎮生汝兄弟大者屬鼠第二屬兔汝身屬蛇此
文類聚陳沈炯上之屬の詩あり十二支ハ鼠丑等
と配寸々々古ハ牛あり

古今談怪小徐晞為郡吏時偶臨守步庭墀中見
一鹿伏地守待句云屋北鹿獨宿啼應聲云溪西雞
齊啼清人魏惟度八石詩の款もよく用ひ
たり

北魏書齊廢帝年六歲性敏惠初學及後於跡字

下注云自及時侍者未達其故大子曰跡字是傍
亦為跡豈非自及邪と是亦及ハ即跡のり字と考り
此類あり娘女良及鮪去魚及神示申及趣取走
及等皆自及と朽す

人の姓名同韻者ハ劉秋鳩匡章田延年劉出求
王石毅謀野集與陳司理思進書小狼五去鷹山
江流帶如宋劉奔並狼山記小白狼五山とん
と略して狼五といふや

注明際葦上游記小予挾唐詩品彙十本後之と也

覽の時書袴と袴との異士もあつたやうなり

丹鉛總録小不借草鞋也言其價賤不須借也古今

注漢文帝履不借以臨朝漢時已有此名矣と揚子

小儀礼喪服鄭注又僂菲今時不借也賈彦疏

漢時謂之不借者此凶荼屨不得後人借亦不得借

人として升菴此ふと刊くさうな何とや

東坡志林賦は檟梁賦は南史榮桓祖侍小

曹操曹丕上馬檟梁下馬談論といふは少つ元微之

老杜墓誌叙小曹氏父子往檟梁賦詩といふと

南史お替りかた

唐詩數吹薛逢初醉裡獨知般甲子病來猶作

晉春秋と上句箕子のいふは韓非子に少門下

句ハ世説に盤齒於病中猶作漢晉春秋といふ

全語と月ゆは注は猶衰は裡陽秋のいふと

くハ非あり

世説司馬徽條下小以羊川頭といふは河川淵鑑類

函に貝了徽の條とて刷頭飾取而出といふは極れ

川ハ刷の語あり頭取の亂れといふと

ひかり

唐詩は新上頭の侍あり女子の髪侍ありあり
 又類聚小法録と引て程正叔言如言徒髮事君徒
 髮事匈奴只言初上頭時也とこれより明あり又有
 齊書華寶傳も寶父嘉臨別謂寶曰須我還當為
 汝上頭寶年七十不婚冠と并あり
 埤雅は羊性畏露晚出早歸詩曰羊牛下未常先
 於牛也との詩は牛羊下より作るは誤なり
 杜牧詩小豎子遠映碧山去と李杜去深映碧

山飛ハ景と程とん

杜審言詩小遲日園林非昔遊と金龍道人悲字依
 非字の釋と寸杜詩小妻子寄他食林園非昔遊と
 後ハ金抄の記據ありん此ハ

五雜組小張由古曰班固有大才而文章不入選或謂
 之曰西都賦燕山銘等並入選何由言無由古曰此是
 班孟堅文章何關班固事とこれ小抄に文選原本
 すつと作者の字ととせむありんといひて事文
 類聚卷首小豎窮苦成惟本和諸賢所著之文不

敢情書其辭、禮依文選各以字書云云、乃又選
元來作者の字と書セ、明のり俗本小班因、
名と云、セ、ハ舊體と失、
左傳の夫契明解、
夫ハ發聲の、

少小行、唐詩選小李頎詩の歌と崔五丈、
屏風も作、文ハ六の保あり唐詩紀等の諸書皆、
作、佩文齋書画譜ハ六圖屏風と譽、此符と載、
六圖、明のり舊唐書憲宗紀ハ六扇屏風

あり亦六圖の證とす

後漢書張衡傳注小論語を引、孔子曰里仁為美、
不處仁焉、得知と今論語小宅と擇小作、二字書を
さあり宅字と句、孟子の仁人ら、
宅也と同義あり一解小備、

張仲景傳後漢書に載セ、晉書皇甫謐傳、
仲存精於編織、仲景垂、於定方、あり

小唱と青雉集ハ妓女の稱、寸五雜組ハ、
稱、寸二説同、

晉張華詩平生從命子遊此聞俠骨香王維詩の
繼死猶聞俠骨香と云つ

王維班婕妤詩德向春園裡花間笑語聲と解す
考或ハ班姬自々春園の中ハて語笑すとハ似
なり梁徐悫妻劉氏婕妤怨詩小况復昭陽近風
傳孔吹聲王詩此ととハ由昭陽とと語笑すと

聲のハ云ふハなり
呂氏春秋不龍象之約ハハ五雜俎之約と鼻ハなり
とハ正字通ハ通ハ便處と寸河ハハ是なり

後漢書列傳四十六注孟子注ハ孝経
那ハ易ハ疏ハもハなりハ其ハ又ハなりハのハ趙ハ政ハ注ハ
回ハハハなりハ

千字文ハ周興嗣ハのハ作ハたハのハハハ梁ハ書ハ蕭ハ子
範ハ制ハ千字文ハ其ハ辭ハ甚ハ美ハ南ハ平ハ王ハ命ハ記ハ室ハ蔡ハ遠ハ注ハ釋ハ
之ハ又ハ武帝ハ制ハ千字文ハ詩ハ沈ハ衆ハ為ハ之ハ注ハ解ハとハあり

梁簡文ハ詩ハ一ハ年ハ夜ハ將ハ盡ハ夢ハ里ハ人ハ未ハ歸ハとハ戴ハ叔ハ倫ハ詩ハ
一ハ年ハ將ハ盡ハ夜ハ夢ハ里ハ未ハ歸ハ人ハ未ハ歸ハとハ顛ハ俗ハとハなりハて
一字ハのハハハなりハ

世説孔北海被收條琢釘戲あり清人周諒因於
 屋者影よ金陵童子有琢釘拔畫地為界琢釘其
 中先以小釘琢地名曰簽以簽所在為主出界者負
 彼此不中者負中而觸所主簽亦負し古の擊埽
 の類なり

蒙求の靈輒扶輪出處洋々北齊書文襄遺
 侯景書小饋以養者便致扶輪之効と云れん
 て考るんちやふ其やありて適々坊々や用ひ
 たり一々輪の付やうい其書りて徐子光の

附よりちい補注よけいと云とてしり申屠
 斷鞅謝安高涼王導公忠等も亦云り

蒙求箋注よ若苗と陸雲の小字なりぬ 祿なり他
 北偶談の周嬰危言と引て崔君苗なり半と浮
 ぶ辨せり

但才集よ古之真實と致して原人原道論也
 而別立原と然れどもまゝなりぬや味寸可く温云
 集のよ原部と云り

五元羨答慎侍御書よ庫露真記是北酒名尚赤

的也。唐地理志。襄州襄陽郡土貢。編中漆器。庫
露真二品云云。皮日休詩。襄陽作鬆器。中有庫露
真。諺不俗。謂書格為庫露真。即方言之鹿角用。以
皮物也。元美偶。之。之。遺忘。十。

史。奕。飾。之。鑄。工。孫。待。詔。見。旬。錄。待。詔。者。吾。松。榘
工之稱也。と云。託。因。一。き。也。

梁。康。肩。吾。慕。遊。山。水。賦。韻。得。磧。應。令。と。分。韻。の。始
あ。し。や。

宋書謝方明傳。劉穆之。白。馬。祖。曰。謝方明。可。謂。名

家。駒。直。置。便。自。台。昆。人。無。論。復。有。才。用。と。事。于。鱗。詩
と直置の字と申ゆ。こゝろあり

宋書列傳第六。張劭。竹。不。張。敷。と。府。載。と。て。又。第。二
十二。の。張。敷。と。載。十。を。復。せ。り。

左傳舟中之指可掬。魏志。孫。不。於。帝。位。と。自。て
曰。皆。爭。攀。船。船。上。人。以。刃。操。斂。其。指。舟。中。之。指。可。掬
と。左。傳。の。解。と。す。一。

漢書。封。弟。康。叔。弼。曰。孟。侯。師。古。曰。孟。長。也。言。為。諸
侯。之。長。と。尚。書。大。傳。小。太。子。年。十。八。曰。孟。侯。と。二。說

同一あり

魏文帝之在廣陵，县人駭乃臨江為疑城。以也
小懈慢國亦曰疑城。名同。一々実異あり。

齊武帝興光樓上施青澹，世人謂之青樓。世
の收法と青楼と一なり。

德州盧見曾戰國策序曰：漢末涿郡高氏，誘也，受學于
同縣盧侍中子幹，嘗定孟子章句，作孝經。呂氏春秋
淮南諸解，訓詁悉用師法，尤精青續其解。呂氏春秋
淮南二書，有急氣復氣，閉口謹口。蓋及切之學實始。

干高氏而孫叔然，然在其後。今刻二書者，盡刪其
說，為可惜也。以從其本。一々と知。只掃書ふ
及切、孫奕小娘。一々と小高氏と始。一々と
珍。一々とあり。

鶴林玉露黃貞升序の中、書可無衣、飢可無食、
一々より、是書何書哉。一々一々、百三十餘字、字お
集の讀、太史公杜工部、東宮同三書、序一々一々、
生吞活剥の基。一々一々の。

劉氏鴻書小鳥衣佳話より曰、吳鮑應詩云、西飛

孔鶴記何詳有吹箭揚世昌當日賦成誰與註數
石刺舊曾藏昔綿少道士與東坡同遊赤壁賦所謂
宥有吹洞簫者即其人也微麪庵表而出之世昌幾
無聞矣

雲莊漫錄之王禹玉丞相寄程公闕詩云舞急錦腰
迎十八酒酣玉觥照東西樂府六么曲有花十八古有玉
東西杯其對甚新也遵生八牋云西泚志云引玉
東為杯之去々々々玉東西之杯の爲々々々々々々々
嵩岳志云五粒峯下有峽如門中秋望夕月從峽出

如鏡在^{ナレ}甚^{ナレ}名曰嵩門^{ナレ}鏡甚山^{ナレ}同

刻譯示夢小詩云々々々莫字ナレと漢云々々々
然れも丘為梨花詩云春風且莫定皮日休鴛鴦
詩云舞妓衣邊緒莫窮云々々々莫字同云々々
ナレと漢て直云々

大和采女小半莠根^{ナレ}と名寸半廣云々々々々々
少云々々赤城舊志小半莠三歲一花根可食土
人以中元^{ナレ}脯之^{ナレ}と唐土云々々々用ナレと云々々
皆と云々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

徒答切音皆皮屨と云れ、皆靴の者なり
 南史齊廢帝鬱林王典レ何氏書紙中央作二大喜字一
 而作三十六小喜字一繞之レ今書家大字の傍二山字一
 と書すレふ似り中山傳信録もせりレ
 檀那と旦那と書くレ畧書なり羯磨と羊石と書
 くレの類なり

今の俗草とも呼んで何のさレひ襦譬喻經二鹿
 中有蒲萄樹一と又持二芭蕉樹一と用レ字ゆれレ謹れ
 るレ狀寸

通志二小々之庸俗以般輸善掄材凡古屋壯飛者皆
 曰魯般造一殊不知般為何代之人一と此土二も志彈の
 工武田番匠一建二つとりのあり一何レもレあり

北史二文帝延興十八年二月壬申至平城宮一
 任二公一北朝の名と引ひられ二つと

楚辭箋注二今市裏人謂之一と今二の市一と立つと
 り二つと

及二魂香一の二東坡詩集一の注二李夫人死一漢武帝
 念二之一不已レ乃二令方士作一及二魂香一燒之レ夫人乃二降一とあり

貫首ハ冠有る音通寸冠純ハ貫純ト云ク小國一
 松竹梅ト歳寒三友ト云フ月合廣ト我ハ出ル
 彼句解ハ甚殺の殺去聲ト注寸顔會小補ト云
 賒上聲俗謂太過曰殺ト上聲ト讀ても可なり
 俗間男風のトと孫トて韓雲孟龍ト云ハ畫工の是
 ト寫ト云とも孟東野ト童子の梁小画ト云々
 張ト韓文ト云々ト云々ト東野ハ韓退ト云々ト年
 長セリ其墓碑ト云東野先ト云々ト云々ト
 京都ト云々ト出京ト云々ト云々ト云々ト云々ト

りト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云ト云
 都旂闕上畫ト沈攸之傳ト共乘小船出京都ト云々
 注ト許詢出都ト何とも京ト云々ト云々ト一梁ト云
 ト云々ト云

空同集ト俗謂善人ト為佛處士ト又曰治佛因號曰仏王
 忠ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

日本歳時記ト云人但愛秋月而不知秋白之妙ト云
 ト云々ト李夢陽の言ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト
 陳眉云の言ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト

范成大三栽山記小殿上木皮蓋^レ檜は^レ雪の敷唐土^ノあり

通鑑晉紀石宣簡^ノ多力之士^ヲ以衛東宮^ヲ號曰高力^ト今高力の姓^ハ名^ハ不^レ詳^ナ也

明七才女詩集余其人五日^ニ安昌其舅氏^ノ韻^ヲ詩^ヲ五湖彩^ヲ西關舟^ヲ福蒲^ヲ捕^テ簪^ヲ前^ニ入^レ酒^ヲ危^ク菖蒲^トと^テ香^クふ^レは^レ今^ノ也

輜軒小録^ニ白山の鶴鳥の^ノ事^ヲと^テ宋^ノ晁^ノ族^ノ之新城遊北山記^ヲ引^テ證^ス類^ノ函^ニ存^ス越^ノ志

と^リて化蒙縣羽山^ニ有^リ池^ノ中^ニ有^リ松^ノ鳥^ノ如^シ今^ノ野鴨^ノ栖^ス松^ノ間^ニ故^ク俗^ニ謂^フ之^ヲ松^ノ鳥^ト御^ノ製^ノの^ノ羽^ノも^ハく^ハか^ハつ^リ是^レ亦^ニ一^ノ證^トす

輟耕録^ニ白^ノ巖^ノ白^ノ蛇^ノ豈^ニ實^ニ物^ト變^ハ幻^ト耶^トと^テ白^ノ蛇^トと^テ貴^クし^ク今^ノ也

詩人玉屑龔^ノ相^ノ至^シ詩^ニ不^レ欲^ス識^ス少^ク陵^ノ奇^ノ德^ノ處^ニ初^ニ無^ク言^フ句^ヲ與^テ人^ノ傳^フと^テ王^ノ元^ノ又^ニ欲^ス識^ス滄^ノ溟^ノ寺^ノ後^ニ峨^ノ眉^ノ天^ノ半^ノ雪^ノ中^ニ看^テ回^ル句^ヲ法^ヲあり

歸有園塵談^ニ乘^テ勢^ヲ作^レ威^ト者^ハ如^シ人^ノ裝^テ鬼^ノ臉^ヲ以^テ駭^ス

小児芥地^六則收下^七閑散餘録^八多糸涯^九の徂來^十の文
 と評して鬼の面とわらわら〜人とどおす〜
 とのりきり奉つ〜

秉穂録卷一

大日本國郡全圖

杉色挿入 全三冊

此全圖、經國の大業に志むる人をして地の理を考へ、政の経歴の密國、領邦の
 人々、勝槩を擧げ、神、社、佛、廟、寺、人、物、名、地、名、を必用の者、悉く勿論
 その國、郡、縣、村、落、山河、水、道、を盡く彩色を以て、決せしむるべ
 か、い、び、實、に、今、書、の、魁、と、す、べし、なり

後撰和歌集新抄

中山美石先生著 全廿冊

此書を真例製本居、其外諸人の著、説を考へ、先余覆の用考
 をゆ、台安規式を以、先例の流儀、を以て、考へ、先余覆の用考
 本居、大平、角、石、永、明、先、著、の、説、其、考、即、を、以、て、考、へ、先、余、覆、の、用、考、

書肆

尾州名古屋本町通七丁目
 江戸日本橋通本銀町二丁目

永樂屋東四郎
 同 出店



愛 知 県



1103267484